

岩屋中だより

令和6年3月15日 NO28

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

卒業証書授与式の卒業生の別れのことは（答辞）を紹介いたします。（web版）

若鳥たちも巣立ちの準備をはじめる春が訪れようとしています。

私たちは今日、岩屋中学校での学生生活を終え、将来への第一歩を踏み出します。こうしてこの場所に立っていると、新たな道に対する希望を抱くと共に、少しの寂しさも感じます。

思い起こせば3年前の春、私たちは真新しい制服に身を包み、不安と期待に胸を膨らませ入学しました。小学生とは違い、慣れない環境での毎日は戸惑うことも多くありました。そんな中、たくさんの行事を通してクラスメイトと交流を深めることで、少しずつ中学校生活に慣れ仲間が増えていきました。

中学校生活初めての体育大会。保護者に参観してもらえない状況でしたが三年生ではたくさんの保護者の皆様や来賓の方々に応援されながらの開催を実現することができました。コロナ禍から日常に戻りつつあることを感じられる瞬間でした。仲間たちとのムカデ競争は練習の時から笑顔が絶えず、勝敗に関係なく楽しかった思い出となりました。

部活動。学年を越えた絆ができ、先輩のたたずまいに憧れを抱きました。後輩ができた時には、初めて「先輩」と呼ばれ、少しの照れくささと同時に誇らしさを感じました。最後の中総体は、声を出して応援することができた大会でした。熱いコールはする側もされる側も一つになり、このまま終わらないでほしいと思うほどの熱いひと時であったことが鮮明に思い出されます。

修学旅行。2泊3日の仲間たちとの旅行に胸が躍りました。歴史の重みを深く感じた萩での自主研修。自然の壮大さを身をもって体験した秋芳洞。ホテルの部屋では仲間との会話が尽きることはなく、先生方に注意されることもありました。この旅行を通して友人の以外の一面を知ることができました。楽しい時間はアツという間で、3日後、現実に戻されることに空虚感を感じていたことを思い出します。

最後の合唱コンクール。優勝してブリックホールへ行くため、それぞれが合唱をよりよくしようと話し合い、確認し合って、時には衝突することもありました。本番で自分たちの歌声が一つになった瞬間は、喜びを感じるとともに目頭が熱くなりました。合唱の上手い学年だと先生方からお褒めいただいていた通り、どのクラスもきれいなハーモニーを奏でることができました。ときどきしながら聞いた結果発表。けれど、結果以上にそれまでクラスのみんなと重ねた練習の日々がよみがえり、胸がいっぱいになりました。

二学期も終わる頃、「受験」という2文字が私たちの前に立ちのびてきました。努力が報われるのか、思い通りの進路を実現できるのか、たくさんの悩みをそれぞれが抱えていました。しかし、家族や先生方に支えられてなんとか乗り越えることができました。そこには、いつも隣で努力する友の姿がありました。

中学校での日々を思い起こすと、友人たちとのたわいもない会話で笑い合えたことが大切な日常であったことは言うまでもありません。価値観や考え方が違って、お互いを尊重し励まし合える友人と出会えたことは私たちの一生の宝物です。

在校生の皆さん。皆さんとは、部活動や生徒会活動、学校行事などでたくさんの価値ある時間を共にしました。「学校を変えたい」と願い、皆さんと共に歩む日々でしたが、私たちは皆さんのよき道しるべとなることができたでしょうか。これからは皆さんが岩屋中学校を創り上げる番です。皆さんの活躍を心から期待しています。

先生方、大変お世話になりました。先生方は時に優しく、時に厳しく私たちを導いてくださいました。私たちが受験や人間関係で悩んだ時、先生方がいつもそばにいてくださったおかげで、今の私たちがいます。本当にありがとうございました

そして、15年間、私たちを一番近くで見守ってくれたお父さん、お母さん。自分たちのことを一番理解してくれているのになかなか素直になれずに、いろいろと心配をかけたこともありました。けれども家族の愛情に包まれ、支えられてここまでたどり着くことができました。私たちは今日、義務教育を終えますが、まだまだ助けてもらうことがこの先もあると思います。これからは少しずつ成長して、お父さんお母さんを支えられるようになりたいと思います。

私たちは今、変化を求められる時代に生きています。コロナウイルス、異常気象、自然災害異国での戦争など大人でも戸惑うような現実。それでもわたしたちは前に進まなければいけません。

今、私たちは新たなスタートラインに立っています。みんなそれぞれ進む方向は違いますが気持ちは一つです。少しの不安とそれをかき消さんばかりの期待を胸に抱いて、私たちは新たな世界へと一歩を踏み出します。岩屋中学校で過ごした3年間を心の支えとし、夢や目標を実現するための意志ある一歩を踏み出すことをやめません。

一緒に時を過ごした仲間感謝の言葉を伝えます。本当にありがとう。別れはつらいですが、見える景色は違ってても遠い場所でも私たちの見上げる空は同じです。

さあ、この岩屋中学校での思い出を胸にそれぞれの道を歩んでいこう。

令和6年3月14日

卒業生代表

